



めばえ  
No. 16  
令和5年  
11月6日  
社会福祉法人  
秋川あすなろ会

お元気ですか

秋の夜長に……と言うことはありますが確かに秋から春先までは夜が長い事は解かっていますしかし、不思議なのです。

若い時は、秋の夜長を、苦にしたことがなかったのに、年(歳)を重ねるごとに、夜長を苦と感えるようになりました。

若い時は、もともと眠りたいと思っていたものです。特に子育て中の夜半にオムツ替えや授乳で何回か起きた数年間は、もともと眠りたい。三つの願いと、自分なりに作った言葉を発していたものです。

「三つの願い」「五つの願い」  
ゆくり眠りたい。ゆくり食事したい。ゆくりトイレに入りたい。ゆくり風呂に入りたい。等々こんな思いをなさっている方々、今しばらくです。

秋の夜長に「ああ早く夜が明けないかなあ」と思う時が必ずや来ます。と教えた。多忙な子育て時代が過ぎて働き盛りもすぎ(働き方、その他)幾分一人身で家に居る時間が多くなる頃になると、少しずつ動き、生活の有りようが変わります。

その時になんて理解できる事が多くなってきた(確かな体力のおとろえなど)六十年代、七十年代、八十年代となるにつれて、秋の夜長を苦と思った。苦を解消するための読み物したり小説読んだり時にはテレビを、

人生の前半、後半を比較できる様生きてもくると、その道が見えて来ますので、ああ、こう変化したんだ……と分かる事が多いです。

そこで

今、八十年代になつて秋の夜長をこのように過ごしているのかという事。

夜半に目がさめると、先ずトイレ。そして何時かなと確かめ、まだ起きるものには早いなあ……に始まり……市街に入るとしてもなかなか眠れない。そこで、私は、人生の振りかえりが始まります。楽しくつた事を思い出すこと……しています。

言葉にして耳を通して、一人会話、一人芝居と言えぬかも。動きのない、ことばだけの思い出芝居等がある時は、夜空を昇上げる事になっています。星座を子育て時代に何回か見たに出掛けた時の様子や、キャンプなどの時の夜空に、歓声を挙げた光景。夜、海と山と空の様子などが、次々に浮かび、幼い時代から働き盛り時代とあややかに浮びます。

そこには、若い自分は勿論ですが、大変だったと、思うより前に、家族の元氣そのものの姿に会え、歳を取ると、

時間だけは、たっぷりと言えそうですが、体力がなくなり行動、活動も思うようにならぬのが現実、それが生きて来た後半ですと、実感しています。

そこで、人生の前半時代に、沢山たくさんの人々との関係、思い出としておきます。

どんな人でも、必ず老いてくものですが、人それぞれ違う人生の道があっても、人と入れ替われない道のり、自分が歩いて来た道を思い出して、親を、子を、友を、ふるさとを、等々あややかに思い出せば、なかなかなるべく元氣になるため、秋の夜の月を、星を、そして、あらためて、夜半まで飛んでいる多くの飛行機の多さに、世の中の変化も、重ねて思い出しています。再び、おやすみなさい。